

福祉・介護・健康フェアで南極の氷展示 自衛隊をPR



新潟地本（本部長 1陸佐 大倉正義）は、11月17日（日）新潟市中央区の朱鷺メッセ展示ホールで開催された「福祉・介護・健康フェア2019」（主催 新潟日报社、県社会福祉協議会、新潟市社会福祉協議会）において広報活動を実施しました。これは、住み慣れた地域で安心して暮らすことについて考えるイベントであり、「介護」「生活支援」「予防・健康」に関するブース等が設置された他「介護技術コンテスト」なども行われ、市民ら約17000人が訪れました。



新潟地本は会場内に「働く車」として軽装甲機動車と1／2 tトラックの車両を展示するとともに募集広報コーナーを展開し、広報用DVDの上映、制服試着を行いました。来場者は気に入った制服を試着し、車両の中や前で記念撮影をして楽しんでいました。



また、当日は「南極の氷」を展示し、その珍しさから一目見ようと大勢の人が集まり、感触を楽しむ姿が見られました。南極の氷は1万年以上も前の物であることや、普通の氷に比べて溶けにくいなどの説明をすると驚きの声が上がっていました。また「どのように氷を運んでくるのか」等の質問があり、海上自衛隊の「南極観測船である砕氷艦しらせ」が運んで来てくれるという話をすると、訪れた来場者達は再度驚いた様子で、南極の氷と海上自衛隊に関心を持った様子でした。このように当日は自衛隊を大きくPRすることができました。

新潟地本は、これからも広報活動を通じて市民とふれあい、自衛隊を広くアピールするとともに、有望な自衛官の発掘に努め募集に繋げていきます。